

1

説明文の出典は鈴木秀子『心の対話者』(文春新書、2005)です。対話を実りあるものにするためには、自分が話すこと以上に、相手の話を聞き、相手が張り合いを持って話せるように気づかわなければならない、ということを説いた文章です。

問1

1頁上段 10行目傍線(1)「同じ心理状態」の意味を問う問題です。6行目からの段落に「相手が話しているあいだの時間は、次に自分は何を話すかを考える時間になる。...聞くことに神経はっていない」とありますので、アが正解です。

問2

1頁上段 14行目傍線(2)「教師との対話」が生徒にとって普通の「会話」とどのような点が違うかということ問う問題です。16行目に「「会話」というのは、自分の話を聞く意思のない人とのあいだには成り立たない。」とあります。これは普通の会話ですが、生徒にとって教師との会話というのは、双方向ではなく、14行目「何かを教えてもらうことを目的として会っているならば、相手から一方的に情報を得るかたちでも価値はあるだろう。」とありますように、教師に対して自分の話を聞いてもらうというのではなく、一方的に情報を得るものですので、そういった点をまとめます。答案の条件、「自分の」に続くかたちになっていることが必要です。なお、以下も同様ですが、記述問題では、制限字数の8割以上書く必要があります。

問3

1頁下段 33行目傍線(3)「真の受容」のための具体的な姿勢を説明する問題です。この箇所より前を見ますと、上段20行目「受容を一言で表現するなら、「あなたの話をしっかり聞きます」という姿勢のことだ。」とあり、続いて、「では、「話をしっかり聞く」というのは、具体的に、どのようにすることであろうか。」とありますので、このあとの、24行目からの段落に具体的な説明が述べられていますので、そこをまとめます。要点としては、相手の言葉を聞き逃さない、表情、しぐさ、声の調子に注目する、否定も肯定もしない、の3点が挙げられます。

問4

1頁下段 50行目 4 にあてはまる語を文中からさがす問題です。聞く側に求められる姿勢に反するわけですから、聞く集中力が低下すると考えられます。この語は上段5行目にあります。

問5

1頁下段 53行目傍線(5)「会話の方向が右往左往する状況も、受容を妨げる」とありますが、受容が妨げられるとその結果どうなるかを説明する問題です。聞き手は「しっかり聞く」ことができなくなることですから、話に対する関心が低下します。また、話し手は、傍線部の直前に「裏切られたような気分を味わう」とありますので、この2点をまとめます。

問6

2頁上段 86行目傍線(6)「受容しながら相手の話を聞き、相手の言いたいことを語らせてあげ、しかも会話を実のあるものにするために重要なのは、「しぐさ」と「相づち」、それと「質問」である」とある中の、「しぐさ」「相づち」「質問」をまとめて表現している漢字2字のことばを抜き出す問題です。83行目に「何の返答も反応も返してくれなかったら」とありますので、「返答」「反応」が答えです。

問7

漢字の書き取り問題は、楷書で丁寧に書く必要があります。

問8

本文の内容に合うものを答える問題です。アは最後の「できるだけ肯定することである」が本文の内容に反し

ています。ウは最後の「相手への敬意を言葉で表現することである。」が本文で述べられていないことで、エは後半の「先入観や固定観念、既成概念による自分の価値観を信用しすぎないことである。」というところが、本文の「先入観や固定観念、既成概念をひとまず脇に置いて」とある箇所に反します。従ってイが正解です。

2

物語文の出典は、ヘミングウェイ『老人と海』（新潮文庫、1966）です。出題されているのは、小説の劈頭部分で、漁に出ても魚の獲れない日が続く老人と彼を慕っている少年の交流が描かれている場面です。

問1

4頁上段7行目傍線(1)「老人が来る日も来る日も空の小舟で帰ってくるのを見るのが、少年には何よりも辛かった。」の理由を問う問題です。2行目に「一匹も釣れない日が八十四日もつづいた。」とあり、また、29行目に「お前が離れていったのは、おれの腕を疑ったからじゃない」とありますので、正解はイとなります。

問2

4頁上段10行目傍線(2)「手つだいをしてやった」少年の気持ちを問う問題です。会話を見ていきますと、ふさわしいものとして、4頁下段62行目「一緒に出かけられないんだもの、なにか役にたちたいんだ」という箇所があります。

問3

4頁上段25行目傍線(3)「お前の乗りこんでいる舟には運がついている。」を具体的に説明する問題です。6行目に「べつの舟に乗りこんで漁に出かけ、最初の一週間で、みごとな魚を三匹も釣りあげた。」とありますので、これをまとめます。

問4

4頁下段43行目傍線(4)「わかってるよ」とある箇所に関して、「わかって」いることの内容を説明する問題です。前の会話文に「おとっつぁんだよ、いけないっていったのは、ぼくは子供だ。いうことをきかなくちゃならないんだ」とありますので、少年が老人と漁に出るのを父親に禁止されたこと、それに従わざるを得なかったことに対して、老人が「わかってるよ」といったことがわかります。

問5

4頁下段35行目「おれたちにはそれができる」ということばに象徴される老人と少年の関係を問う問題です。このことばは、傍線部の前の「おとっつぁんには人を信じるってことができないんだね」に対して発せられたものですから、老人と少年は信じること、信頼できることができるということだとわかります。そして、二人の信頼とは、漁をめぐるのものでありますので、4頁下段39行目にある「漁師仲間」というのが二人を説明する適切なものです。すなわち、漁師仲間として、相手を信頼している、というような内容の記述が正解となります。

問6

4頁下段40行目傍線(6)「腰」を用いた慣用句の意味を問う問題です。一はア、二はオ、三はエ、四はウ、五はイとなります。

問7

5頁上段90行目(7)に入る文を選ぶ問題です。この次に「老人は折れていった」とありますので、少年の提案に従った内容である、アが正解です。

問8

本文の内容に合致するものを選ぶ問題です。アは後半の「漁師たちは、表には表さないが、漁に関する話ばかりしている少年と老人を軽くあしらっている。」が誤り。イは最初の「漁師仲間全員にからかわれている」というのが本文4頁下段41行目「なかには、年とった漁師など、かれを見て心を暗くするものもいた。」に反

しています。ウは「両手の古い傷を少年は自分のことのように誇りに思っていた。」というのが本文にはないことです。従って、エが正解です。

以上で解説を終わります。ご清聴ありがとうございました。